

先哲格言

修身要訓

中村鼎五編

四

Z.57

378

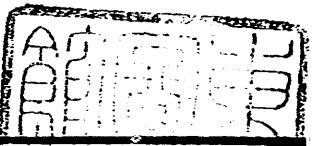
館藏書會百教本日

一	八	函
二	架	
三	〇	號
七	册	

K1101

106

4



先哲  
格言

修身要訓 卷四

中村鼎五編

第一章

○國家の法度の、皆綱紀  
あり、人れ子よる者、謹  
守りて、犯さざるハ、亦是

先哲格言

修身要訓

卷四

中村鼎五編

親ふ、孝たるの道ふり

童子習

○少の長よ事へ、賤の貴

ふ事へ、不肖の賢よ事ふ

るい、此天下の通義ふり

說苑

○惡言口より出でど、忿

言身ふ反らど、其身と辱

しめず、其親を羞しめど

るい、孝と謂ふべし小學

○父母ふ事へてい、其身

と盡して、惜む可らど大和俗訓

○善を行ふ道い、まづ孝

悌を本として、人倫を何  
つくり行ふべし初學訓

○内の則父子、外の則君  
臣、人の大倫ふり、父子恩  
を主とし、君臣敬と主と  
に孟子

○君ふの敬と主として、  
愛を行ふべし、君を敬ひ  
たるのみふて、心誠と愛  
せざれば、忠と何ら大和俗訓

第二章

○徳の博く人を愛する

よき、高きいふし

賈誼  
新書

○人の悪む所を好む、人の好む所を悪む、これと人れ性ふもとると謂ふ、蓄必ぞ夫身よれよぶ大學人又交る道い、厚きと

昔とす、厚とい、人と責めどして、己を責むるを云

ふ 大和  
俗訓

○君子い、其能をる所と以て、人と病ましめず、人の能せざる所を以て、人

と愧しめず 禮記

○敬をれば則萬善俱ふ

立ち怠まれば則萬善俱ふ

廢る 初學  
知要

○敬以て己と持ち謙以

て人よ接らば以て過寡

かるべし 薛文  
清語

○善と見て能遷れば則

以て天下の善を盡さべ

し 程子  
語

### 第三章

○人の學問をる所以の

先哲修身要訓 卷四 五 中近堂補抄

要二何り、其知らざる所  
 を知り、其既ふ知る所と  
 行ふは在るのみ慎思録  
 ○他事として、學と好む  
 の心ふ勝たしめざれば、  
 則進むことあり薛文清語

○學者固より當ふ勉強  
 して、懈らざるべし、又心  
 志と寛舒して、精神を愛  
 養むべし初學知要  
 ○志を立て、以て其本と  
 定め、敬ふ居て、以て其志

と持つ 胡五峰語

○其才有里と雖、其志無  
けまば、亦其功と興まこ

と能えず 徐偉長語

○纔小姑く來日を待つ

い、是自棄なり 程子語

○此日再び得難し、今年  
重ねて來らざ、是と以て  
學者い、最時日を惜むこ

とと要に 初學知要

第四章

○凡事い、輕忽小なを可



らず、至微至易ふる者と  
雖、當ふ慎重と以て、之と

處をべし

從政  
名言

○ 理ふ順へば則裕あり、

欲よ從へば惟危し

程子  
語

○ 其善なる所と言ひ、其

善なる所と思ふ、此の如

くふして、君子とならざ

る者、未だこれ何らば小學

○ 人の微賤なるも、みふ

誠敬と以て、之を待べし、

ゆるかせふして、慢るべ

うらず

讀書錄

○憂患の忽ふとるより生じ、禍の細微より起る

說苑

○食と節とれば、則疾ふし、言を擇べば、則禍なし

初學知要

○煩と厭ふは、是人の大病なり、人事の廢弛し、功業の成らざる、所以ふ也

慎思錄

### 第五章

○人情て侈れば、則貧し、  
力めて儉をまじば、則富む

管子語

○儉約ふして、我身よ奢  
なきを、徳と云ふ、財と惜  
みて、人ふ施さざるを、不

徳と云ふ

家道訓

○人い欲なきこと能と  
ずと雖、當ふ以て之と制  
するおと何るべし

程子語

○君子の財と浪りふ費  
さざるは、人ふ益ある事

よ、用心んが為ふり 家道訓

○財と多く貯へて餘有

まば、人ふ益何る事よ費

とべし、無益の事ふ費す

るらば 同上

○福ふ居て禍を慮れば、

其福持つるし、得ると見

て喪ふことを忘るれば、

其喪必以たる 陸宣公奏議

○人生の勤ふ在り、勤む

るとき、匱しからず、戸

樞蠹せど、流水腐らど、こ

き其理なり

名臣言行録

### 第六章

○善い、忠とあすよと大なるいふく、悪い、不忠より大なるいふし

○己の才智お誇りて、君

日新館童子訓

父と慢り、長上を侮る者い、己の心と制するの心ふきものふして、禮義は常と亂る者あり

○朋友の間、禮厚けきば争ふし、争い總て無禮よ

悟窓漫筆

里生む

大和俗訓

○始と謹み、終を慮ること能くば、快み乘じて事を作し、後收拾し難きよと、何まば、必悔あり

從政名言

○士は窮して義を失わず、達して道を離まば、孟子○道を以て欲と制をれば、則樂を亂まらず、欲を以て道を忘るれば、則惑て樂まらず 樂記

格言修身要言 卷四 中近堂 藤村

○忠正ハ福と致むの本  
ふして戒慎ハ慶と集む  
るの源ふり 臣軌

先哲 格言 修身要訓 卷四 終

官許 東京中近堂

# 信守



明治十八年一月二十二日版權免許  
 年三月出版

定價金五錢五厘

編者

滋賀縣士族

中村鼎五  
滋賀縣全郡彦根奇捨置

出版人

東京府士族

中島精一  
東京芝區三田四町三番地

發兌

東京銀坐三丁目

中近堂

大阪備後町四丁目

中近堂支店

名古屋東本壽百

中近堂支店

東京通言  
 全芝三島町  
 全本町  
 全通三丁目  
 全通二丁目  
 全馬喰町

丸善商社  
 山中兵衛  
 金山堂  
 稻田佐兵衛  
 北島茂兵衛  
 石川沼兵衛

東京横出  
 全油町  
 大阪備後町  
 全南久壽町  
 全南久壽町  
 全寺町

出雲寺萬次郎  
 水野慶次郎  
 梅原龜七  
 前川善兵衛  
 大黒屋太郎右衛門  
 田中沼兵衛



